2026年11月20日

各 位

会 社 名　HiJoJo Partners株式会社
代表者名　代表取締役共同社長執行役員　メンザス・スピリドン
代表取締役共同社長執行役員　秋山　典文
（コード番号：657A 東証グロース市場）
問合せ先　執　行　役　員　塚本　美香
（TEL：03-6705-8660）

東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、2026年11月20日に東京証券取引所グロース市場に上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2026年10月期(2025年11月１日から2026年10月31日まで)における当社グループの業績予想は、次のとおりであります。また、最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

なお、当社グループが行うアセットマネジメント事業は、米国を中心とする非上場株式市場及び新規上場市場の動向による影響を大きく受けるとともに、特定の投資先の上場時期や株式売却のタイミング等の外部要因により、各事業年度及び各四半期の業績が大きく変動する特性を有しております。また、当社グループは、US事業、PEIT事業及びPMS事業（非上場有価証券特例仲介等業務）の新規事業を推進しておりますが、これらの事業が今後どのような規模・ペースで収益に貢献していくかについて、現時点で安定的な推移を見通すことは困難な状況にあります。

以上の理由から、当社グループは、2027年10月期以降の業績予想について合理的な算定を行うことが困難であると判断しており、期初における業績予想の開示は行わないこととしております。なお、第３四半期の終了時点においては、概ね通期の業績を見通すことが可能になるものと想定され、その時点において業績予想を開示する可能性があります。

投資家及び株主の皆さまの投資判断に資するよう、業績予想に代えて、当社グループの主要KPIである「累計契約総額」「運用中の契約総額」「会員数合計」及び「当社参考価格総額」等について、定期的に開示してまいります。

【連結】

（単位：百万円、％）

決算期 / 項目	2026年10月期 通期(予想)			2026年10月期 第３四半期累計期間(実績)	
		対売上高比率	対前期増減率		対売上高比率
売上高	3,499	100.0	－	2,905	100.0
営業利益	1,847	52.8	－	1,680	57.8
経常利益	1,861	53.2	－	1,688	58.1
親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益	1,185	33.9	－	1,145	39.4
１株当たり当期(四半期)純利益	25円63銭	－	－	24円88銭	－
１株当たり配当金	０円00銭	－	－	－	－

（注）１．当社は、2026年10月期第２四半期会計期間（2026年２月１日～2026年４月30日）より、US事業において米国子会社を設立したため、連結財務諸表の作成を開始しております。これに伴い、上記表中では、2026年10月期通期及び2026年10月期第３四半期累計期間について記載するとともに、対前期増減率の記載を省略しております。2025年10月期の非連結については次ページの表をご参照ください。

２．2026年10月期第３四半期連結累計期間（実績）及び2026年10月期（予想）の１株当たり当期（四半期）純

利益は、期中平均発行済株式数により算出しております。なお、2026年10月26日開催の取締役会において決議された公募による新株式の発行は基準日（2026年10月31日）の後となることから、2026年10月期（予想）において、発行済株式総数の増加は見込んでおりません。

【非連結】

（単位：百万円、％）

決算期 項目	2025年10月期 通期(実績)	
		対売上高 比率
売上高	1,758	100.0
営業利益	674	38.4
経常利益	686	39.1
当期純利益	513	29.2
１株当たり当期純利益	11円65銭	－
１株当たり配当金	０円00銭	－

（注）１．当社は、2026年10月期第２四半期会計期間（2026年２月１日～2026年４月30日）より、US事業において米子会社を設立したため、連結財務諸表の作成を開始しております。これに伴い、上記表中では2025年10月期について記載しております。2026年10月期通期（予想）及び2026年10月期第３四半期累計期間については前ページの表をご参照ください。
２．１株当たり当期純利益については期中平均発行済株式数により算出しております。

【2026年10月期業績予想の前提条件】

１．当社グループの見通し

当社グループは、「投資を変える、市場を変える、日本を変える」をパーパス（私たちの存在意義）として、国内外のミドル・レイトステージ企業への投資機会を日本の投資家へ提供するアセットマネジメント事業を展開しております。主力事業であるファンド募集事業においては、主として１ファンド１銘柄のファンドを組成・運用し、国内投資家に対して販売しております。

当社グループの売上高は、主としてファンド販売時に受領する申込手数料、ファンド運用期間中に受領する運用報酬等及び投資成果に応じて受領する成功報酬により構成されております。申込手数料は主にファンド販売額に応じて発生し、運用報酬等は運用資産残高に応じて継続的に計上されます。また、成功報酬は投資先有価証券の売却等による投資成果に応じて計上されます。このため、ファンド販売額及び運用資産残高の拡大が当社グループの収益拡大につながる構造となっております。

また、2026年２月以降、当社は海外での収益機会の更なる獲得に向けて米国子会社を設立しております。2026年10月期第２四半期より連結財務諸表作成を開始しておりますが、当社グループの収益体系は、従前から変更はございません。

当社グループを取り巻く米国ベンチャーキャピタル市場においては、2026年1月～3月の投資総額（2,672億米ドル）及びエグジット総額（3,473億米ドル）はともに高水準となりました。しかし、上位５件のメガディールが内訳の大宗を占めており、新興スタートアップは依然として流動性不足とIPO停滞に直面しております。市場の二極化が懸念される中、新興ファンドの今後の分水嶺になるとして主要企業（SpaceX、OpenAI、Anthropic等）のIPO動向が注目を集めています。（参照：National Venture Capital Associations「PitchBook-NVCA Venture Monitor 2026 Q1」）

なお、当中間連結会計期間の後半から足元にかけての米国経済においては、中東情勢に伴うエネルギー価格の上昇及びPPI（生産者物価指数）の上振れを受け、米国10年債利回りが4.4%を超える高水準で推移する一方で、2026年5月中旬時点でナスダック100指数が史上最高値を更新しております。通常、金利上昇はグロース株のバリュエーションに対して抑制的に働きますが、堅調なAI関連需要が市況を牽引している状況が続いております。（参照：Bloomberg「Rates&Bonds」、Bloomberg「American Stocks」）

2025年10月期においては、12ファンドの新規募集により計8,923百万円のファンド販売を行いました。売上高の主な内訳として、成功報酬 853百万円、申込手数料 379百万円、運用報酬等 475百万円を計上しまし

た。投資未実行分を含むファンドの累計販売金額は50,000百万円を突破いたしました。中でも、SpaceX関連ファンドは3,153百万円の販売額を記録しました。また、投資運用方針に基づく投資先持分の売却により、成功報酬も計上しております。

これらの結果、当事業年度の業績は、売上高 1,758百万円、営業利益 674百万円、経常利益 686百万円、そして当期純利益 513百万円となりました。

2026年10月期においては、AI関連企業及びSpaceXを最終投資対象とするファンドを中心に15ファンドを組成し、22,347百万円のファンド販売額を見込んでおります。

当連結会計期間は、AI関連企業のファンドやSpaceX関連ファンドの販売が好調に推移しました。AI関連企業を投資対象とするファンドは８ファンドを組成し、計5,536百万円を販売しました。SpaceXを最終投資対象とするファンドは３ファンドを組成し、計7,710百万円を販売しました。また、グローバル非上場株式を主たる投資対象とする証券投資法人「HiJoJoグローバルユニコーン投資法人」を投資対象とする「HJJ PEIT投資事業有限責任組合」を組成し、当社が組成するファンド単独としては過去最大の8,891百万円の販売額を達成しました。

当連結会計期間においては、SpaceX組み入れファンドを含む２ファンドで成功報酬が発生しており、2026年９月までに2,013百万円の売上高を計上しております。

これらの結果、当連結会計期間の業績は、売上高 3,499百万円、営業利益 1,847百万円、経常利益 1,861百万円、そして当期純利益 1,185百万円となる見込みです。

２．個別の前提条件等

当社グループにおける2026年10月期通期連結業績予想は、2026年８月までの10か月累計実績に、2026年９月度～2026年10月度までの予想数値を以下の前提で算出し合算した数値となっております。なお、前期比の数値は2025年10月期の非連結との対比を記載しております。

（1）売上高

2026年10月期の売上高予想は、既に確定した実績値に加えて、新たに組成するファンドの時期、販売見込額、手数料率を個別に見積もり算定しております。成功報酬においては新たに計上予定のものはなく、実績値のみを反映しております。

販売見込額は、2026年９月末時点で募集を完了しているファンドを集計対象としております。売上高予想の算定にあたっては、当該販売見込額を前提としてファンド毎に設定された手数料率を基に算定しております。販売額の増加には既存顧客によるリピート投資と新規顧客の継続的な獲得が必要であるため、運用パフォーマンスの向上はもとより、顧客紹介会社の開拓やSNS・インターネット広告等を活用した会員基盤の拡大に精力的に取り組んでいます。

申込手数料は各ファンドの販売見込額に応じて、出資額金額に対して税込1.0～4.4%程度、運用報酬等は既存ファンド及び新規ファンドの運用資産残高を基礎として、出資額金額に対して税込年1.1～2.85%程度、そして成功報酬は、投資先有価証券の売却等を予定しているファンドについて見込まれる投資成果に基づき、売却等により獲得した処分収益から出資額を控除した金額の税込22.0%程度にて各々算定しております。

当連結会計年度の主な売上高の内訳は、成功報酬 2,013百万円、申込手数料 818百万円、運用報酬等 528百万円であります。

これらの結果、2026年10月期については、「１．当社グループの見通し」のとおり、AI関連銘柄又はSpaceXを最終投資対象としたファンドの組成や販売が好調であったことから、ファンド組成数は前期比25%増の15ファンド、ファンド販売額は前期比150.4%増の22,347百万円、2026年10月期の連結売上高3,499百万円（前期比99.0%増）を見込んでおります。

（2）売上原価、売上総利益

売上原価は主として人件費、紹介手数料及び支払報酬料により構成されております。

人件費はファンド組成及び運用に従事する担当者の人件費を計上しており、紹介手数料は顧客紹介先を通じたファンド販売に応じて発生します。また、支払報酬料についてはファンド組成及び運営に係る外部専門家費用を見込んでおり、新規のファンド組成や運用中のファンド数に応じて費用が変動します。

以上の結果、2026年10月期については、主な内訳として人件費（原価）137百万円（前期比23.0%増）、紹介手数料（原価） 306百万円（前期比100.5%増）、支払報酬（原価） 91百万円（前期比2.6%増）を見込み、2026年10月期の連結売上原価 561百万円（前期比48.9%増）、売上総利益2,937百万円（前期比

112.7%増）を見込んでおります。

（3）販売費及び一般管理費及び営業利益

販売費及び一般管理費は、主として人件費、支払報酬、租税公課、旅費交通費、採用教育費、システム関連費用及び地代家賃等により構成されております。主な内訳は、人件費 732百万円（前期比64.7%増）、支払報酬 122百万円（前期比79.3%増）、租税公課 45百万円（前期比98.9%増）、旅費交通費 34百万円（前期比52.3%増）、システム関連費用 26百万円（前期比68.9%増）、地代家賃 27百万円（前期比30.2%増）などであります。人件費については、事業拡大及び上場会社としての管理体制強化を目的とした採用計画を反映しております。また、支払報酬については、ガバナンス及び内部管理態勢強化に伴う監査・専門家費用、一時的な上場関連費用や上場維持費用の一部も織り込んでおります。

以上の結果、2026年10月期の連結販管費 1,089百万円（前期比54.3%増）、連結営業利益1,847百万円（前期比173.8%増）を見込んでおります。

（4）営業外損益及び経常利益

営業外収益及び営業外費用については、2026年８月までの10か月累計実績及び業績予想策定時点で発生が見込まれる事項を踏まえて見積っております。主な項目は投資運用損益、銀行預金の受取利息、為替差損益及び上場関連費用です。投資運用損益や受取利息については保有資産の状況を踏まえ、為替差損益については当第３四半期末時点の為替水準を前提として算定しております。

以上の結果、2026年10月期の連結営業外収益 17百万円（前期比47.1%増）、連結営業外費用 3百万円（前期比100%増）、そして連結経常利益 1,861百万円（前期比171.0%増）を見込んでおります。

（5）特別損益、法人税等及び親会社株主に帰属する当期純利益

特別利益は、自己投資有価証券の売却益３百万円を見込んでおります。売却理由は、有価証券の保有目的を見直した結果、投資時の目的達成の確度が低くなったことによります。

特別損失は、自己投資有価証券に係る評価替えの結果、投資有価証券評価損を２百万円計上する見込みであります。これは、自己資金にて保有する未上場株式の一部について、投資先企業の財政状態等を踏まえて実質価額を見直した結果、帳簿価額との差額を評価損として計上するものであり、ファンド事業の収益構造に影響を及ぼすものではありません。

法人税等については、当社及び連結子会社の利益計画に基づき、実効税率等を考慮して算定しております。

親会社株主に帰属する当期純利益は、上記前提条件に基づき算定しており、当社グループの事業計画に沿ったファンド組成及び販売活動が着実に進捗することを前提としております。

以上の結果、2026年10月期の連結親会社株主に帰属する当期純利益1,185百万円（前期比130.9%増）を見込んでおります。

【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合があります。

以上

2026年10月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月20日

上 場 会 社 名　HiJoJo Partners株式会社　　上場取引所　東
コ ー ド 番 号　657A　　ＵＲＬ　https://www.hijojo-partners.com/
代　　表　　者　(役職名)　代表取締役共同社長　(氏名)　メンザス・スピリドン／秋山 典文
問合せ先責任者　(役職名)　執行役員　(氏名)　塚本 美香　(TEL)　03（6705）8660

配当支払開始予定日　―
決算補足説明資料作成の有無　：無
決算説明会開催の有無　：無

(百万円未満切捨て)

１．2026年10月期第３四半期の連結業績（2025年11月１日～2026年７月31日）

（１）連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期期増減率)

	売 上 高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年 10月期第３四半期	2,905	―	1,680	―	1,688	―	1,145	―
2025年 10月期第３四半期	―	―	―	―	―	―	―	―

(注) 包括利益　2026年 10月期第３四半期　1,166百万円（―%）　2025年 10月期第３四半期　―百万円（―%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年 10月期第３四半期	24.88	―
2025年 10月期第３四半期	―	―

(注) １．2026年 10月期第２四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2025年10月期第３四半期の数値及び前年同四半期増減率については記載しておりません。
２．潜在株式調整後１株当たり四半期純利益については、新株予約権の残高がありますが、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。

（２）連結財政状態

	総 資 産	純 資 産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年 10月期第３四半期	5,894	4,327	73.3
2025年 10月期	―	―	―

(参考) 自己資本　2026年 10月期第３四半期　4,317百万円　2025年 10月期　―百万円

(注) 2026年 10月期第２四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2025年10月期の数値については記載しておりません。

２．配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年 10月期	―	0.00	―	0.00	0.00
2026年 10月期	―	0.00	―		
2026年 10月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：無

３．2026年10月期の業績予想（2025年11月１日～2026年10月31日）

(%表示は、対前年同期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,499	―	1,847	―	1,861	―	1,185	―	25.63

(注) １．直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：無
２．2026年 10月期第２四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前年同期増減率を記載しておりません。

※　注記事項

（1）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更　：有
新規 4 社　（社名） HiJoJo Holding Company Inc.及びその連結子会社 3 社
除外 ―社　（社名） ―

（注）詳細は、添付資料 P7「２．四半期連結財務諸表及び主な注記（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無
② ①以外の会計方針の変更　：無
③ 会計上の見積りの変更　：無
④ 修正再表示　：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年10月期3Q	46,780,140株	2025年10月期	30,000,000株
② 期末自己株式数	2026年10月期3Q	―株	2025年10月期	―株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2026年10月期3Q	31,982,397株	2025年10月期3Q	30,000,000株

（注）上記の発行済株式数には優先株式は含まれておりません。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人のレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項
本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
上記業績予想に関する事項については、添付資料３ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 2
（１）当四半期の経営成績の概況 2
（２）当四半期の財政状態の概況 2
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 2

２．四半期連結財務諸表及び主な注記 3
（１）四半期連結貸借対照表 3
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 5
四半期連結損益計算書 5
四半期連結包括利益計算書 6
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 7
（継続企業の前提に関する注記） 7
（当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更） 7
（追加情報） 7
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） 8
（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記） 8
（セグメント情報等） 8
（収益認識関係） 8
（１株当たり情報） 9

１．経営成績等の概況

当社グループは、2026年10月期第２四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同期及び前連結会計年度末との比較分析は行っておりません。

（１）当四半期の経営成績の概況

当社グループを取り巻く米国ベンチャーキャピタル市場は2026年上半期の投資総額が4,127億ドルと過去最高を記録し、AI関連が投資額の86％を占めました。エグジット面ではスペースX社のIPOが単独で過去10年分を上回る規模となり、OpenAI・Anthropic等の有力AI企業のIPO動向が引き続き市場の焦点となっております。一方で資金は上位ファンド・メガディールに集中し、二極化が続いています。（参照：National Venture Capital Association「PitchBook-NVCA Venture Monitor 2026 Q2」）また米国では財政赤字拡大やエネルギー価格上昇を背景に10年債利回りが約20カ月ぶりの高水準となり、新FRB議長就任による政策不透明感も市場の注目材料となる中、ナスダック100は史上最高値を更新しAI需要主導の株高が継続しています。（参照：Bloomberg「Rates＆Bonds」、Bloomberg「American Stocks）

このような環境のもと、当社グループは「投資を変える、市場を変える、日本を変える」をパーパスに掲げ、米国ユニコーンを中心とした有力スタートアップを投資対象とするファンドの組成・販売・運用を行うアセットマネジメント事業を主軸に、スタートアップ投資の民主化及び非上場株式市場の拡大に取組んでいます。また新規事業として、2026年6月にグローバル非上場株式を主たる投資対象とする証券投資法人「HiJoJoグローバルユニコーン投資法人」を設立し、AUMの拡大を目指すとともに、2026年2月に立ち上げた米国事業のさらなる拡大を通じて、収益基盤の多様化を図っております。

当第３四半期連結累計期間においては新たに計12ファンドを組成し、15,898百万円の資金導入を実現しました。1月にはAI関連銘柄の3ファンドを組成し、特にインターネット上で販売したAnthropicファンドが投資家から注目され単独で1,498百万円を集めました。3月と5月にはSpaceX社を最終投資対象とするファンドを３本組成し、計7,710百万円の資金導入を実現しました。6月から7月にかけてはOpenAI社を最終投資対象とするファンドを３本組成し、計2,290百万円の資金導入を実現しました。

上記により当社グループの当第３四半期連結累計期間末の運用中の契約総額は48,208百万円となり、当第３四半期連結累計期間における主な売上高の内訳は成功報酬 2,013,001千円、申込手数料 443,034千円、リカーリング報酬 413,201千円となりました。

この結果、当第３四半期連結累計期間の業績は、売上高 2,905,591千円、営業利益 1,680,251千円、経常利益 1,688,605千円、親会社株主に帰属する四半期純利益 1,145,771千円となりました。

（２）当四半期の財政状態の概況

（資産）

当第３四半期連結会計期間末の資産合計は、5,894,305千円となり、主な内訳は、現金及び預金 3,478,572千円、売掛金 156,003千円、投資有価証券 1,879,258千円であります。

（負債）

当第３四半期連結会計期間末の負債合計は、1,567,297千円となり、主な内訳は、未払法人税等 598,959千円、前受収益 236,254千円であります。

（純資産）

当第３四半期連結会計期間末の純資産合計は、4,327,008千円となり、主な内訳は、資本剰余金 2,334,105千円、利益剰余金 1,857,896千円であります。これらの結果、自己資本比率は73.3％となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年10月期の業績予想につきましては、本日開示いたしました「東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。

なお、当該業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により、予想数値と異なる可能性があります。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	当第３四半期連結会計期間 （2026年7月31日）
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	3,478,572
預託金	102,918
売掛金	156,003
前払費用	20,863
その他	28,009
流動資産合計	3,786,367
固定資産	
有形固定資産	
建物附属設備（純額）	6,061
工具、器具及び備品（純額）	18,292
有形固定資産合計	24,354
無形固定資産	
ソフトウエア	512
無形固定資産合計	512
投資その他の資産	
投資有価証券	1,879,258
繰延税金資産	105,215
差入保証金	14,697
その他	83,900
投資その他の資産合計	2,083,071
固定資産合計	2,107,938
資産合計	5,894,305

（単位：千円）

	当第３四半期連結会計期間 （2026年7月31日）
負債の部	
流動負債	
未払金	115,961
未払費用	67,361
未払法人税等	598,959
未払消費税等	167,825
預り金	122,898
顧客預り金	102,918
その他の預り金	19,979
前受収益	236,254
賞与引当金	208,845
役員賞与引当金	46,655
その他	2,535
流動負債合計	1,567,297
負債合計	1,567,297
純資産の部	
株主資本	
資本金	100,000
資本剰余金	2,334,105
利益剰余金	1,857,896
株主資本合計	4,292,001
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	7,389
為替換算調整勘定	18,317
その他の包括利益累計額合計	25,707
新株予約権	9,300
純資産合計	4,327,008
負債純資産合計	5,894,305

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

（第３四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	当第３四半期連結累計期間 （自 2025年11月1日 至 2026年７月31日）
売上高	2,905,591
売上原価	383,190
売上総利益	2,522,401
販売費及び一般管理費	842,150
営業利益	1,680,251
営業外収益	
投資有価証券運用益	3,071
受取利息	4,614
為替差益	4,066
その他	172
営業外収益合計	11,924
営業外費用	
株式交付費	3,569
営業外費用合計	3,569
経常利益	1,688,605
特別利益	
投資有価証券売却益	3,741
特別利益合計	3,741
特別損失	
投資有価証券評価損	2,783
特別損失合計	2,783
税金等調整前四半期純利益	1,689,563
法人税、住民税及び事業税	638,472
法人税等調整額	△94,680
法人税等合計	543,792
四半期純利益	1,145,771
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,145,771

四半期連結包括利益計算書

（第３四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	当第３四半期連結累計期間 （自 2025年11月1日 至 2026年７月31日）
四半期純利益	1,145,771
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	2,561
為替換算調整勘定	18,317
その他の包括利益合計	20,879
四半期包括利益	1,166,650
（内訳）	
親会社株主に係る四半期包括利益	1,166,650
非支配株主に係る四半期包括利益	―

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更)

第２四半期連結会計期間より、新たに設立したHiJoJo Holding Company Inc.及びその連結子会社3社を連結の範囲に含めています。

(追加情報)

(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

当社グループは、第２四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項は以下のとおりです。

１．連結の範囲に関する事項

（１）連結子会社の数　４社

連結子会社の名称　HiJoJo Holding Company Inc.
HiJoJo Management Company Inc.
HiJoJo Investing Company Inc.
HiJoJo US Fund1

（２）非連結子会社の数　１社

非連結子会社の名称　HiJoJoグローバルユニコーン投資法人

（連結の範囲から除いた理由）

非連結子会社の総資産、売上高、四半期純損益、利益剰余金はいずれも四半期連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

２．持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

３．連結子会社の事業年度等に関する事項

四半期連結財務諸表の作成に際しては、７月31日を決算日とする連結子会社は、四半期連結決算日との差異が３カ月を超えないことから、同社の正規の決算を基礎として連結決算を行っております。12月31日を決算日とする連結子会社は、出資元の連結子会社の四半期決算日（４月30日）で実施した仮決算に基づく四半期財務諸表を使用しております。

なお、四半期連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

連結子会社の決算日は以下の通りであります。

決算日　7月31日
HiJoJo Holding Company Inc.
HiJoJo Management Company Inc.
HiJoJo Investing Company Inc.
決算日　12月31日
HiJoJo US Fund1

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2025年12月26日にシリーズＢ１調達ラウンドとして、第三者割当増資を実行いたしました。Ｂ１種優先株式2,300,235株の新規発行により、資本金及び資本準備金がそれぞれ474,998千円増加しております。

2026年２月19日にシリーズＢ１調達ラウンドとして、第三者割当増資を実行いたしました。Ｂ１種優先株式169,491株の新規発行により、資本金及び資本準備金がそれぞれ34,999千円増加しております。

2026年６月に新株予約権の行使により、資本金及び資本準備金がそれぞれ12,015千円増加しております。

2026年５月20日開催の取締役会において、100,000千円への資本金の額の減少について決議し、2026年６月30日付で資本金が722,013千円減少し、減少する資本金の全額をその他資本剰余金に振り替えております。

以上の結果、当第３四半期連結会計期間末における資本金は100,000千円、資本剰余金は2,334,105千円となっております。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第３四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第３四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	当第３四半期連結累計期間 （自 2025年11月１日 至 2026年７月31日）
減価償却費	6,961千円

（セグメント情報等）

当社は、アセットマネジメント事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（収益認識関係）

当社は、アセットマネジメント事業の単一セグメントであり、主要な顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりであります。

（単位：千円）

	合計
ファンド手数料収入　（※１）	856,236
ファンド成功報酬	2,013,001
その他報酬　（※２）	36,353
顧客との契約から生じる収益	2,905,591
その他の収益	―
外部顧客への売上高	2,905,591

（※１）ファンド手数料収入は、申込手数料、販売報酬、運用受託報酬、事務管理受託料から構成されております。

（※２）その他報酬はコンサルティング報酬が主なものであります。

（１株当たり情報）

１株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第３四半期連結累計期間 （自 2025年11月1日 至 2026年7月31日）
１株当たり四半期純利益	24円88銭
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	1,145,771
普通株主に帰属しない金額(千円)	―
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	1,145,771
普通株式の期中平均株式数(株)	46,060,884
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後１株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	―

(注) 潜在株式調整後１株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため、記載しておりません。